



第3270図



第3271図



きばなこすもす

Cosmos sulphureus Cav.

メキシコ原産の一年生草本。昭和年代に漸く一般化はじめた。全株無毛、時に微毛散生し、茎は高さ約40-60cm直立し、上方で枝を斜めしつつ2-3回分枝し、夏日、長柄の先端に径6cmばかりの大形の頭花を単生する。葉は有柄、広卵形。濃緑色、2-3回、羽状に深裂し、裂片は披針形、先端尖る。上方の葉は無柄。頭花に内外両総苞片があり、外片は緑色革質で広く開き、長さ5mm許、内片は褐色膜質で外片の二倍の長さがあり、花後に直立する。舌状花冠は狭倒卵形、鈍頭又は截頭で、濃黄橙色、先端に3-5個の歯牙があり、花後散落する。筒状花は稍々少数、直立、瘦果は稍々彎曲した棍棒状、先端嘴状に細まり、長さ約2cm、逆毛のある2刺がある。和名は黄花を開くコスモスの意。

せいいたかたうこぎ

一名あめりかせんだんぐさ

Bidens frondosa L.

北米の原産であるが帰化して各地の低湿地や路傍に多い1年生草本。茎は高さ1mを超えて、稍々角ばった4稜柱状で白髓、無毛、多くは濃い暗紫色に染まる。葉は三出又は羽状に見える再三出の複葉で対生し、頂小葉は大きく、6-7cm長、披針形で両端せまく、ケヤキに似た葉脈を示し、軟質、表は暗碧緑色、裏は淡緑、中肋の隆起が著しい。9-10月に茎頂は稍々複総状の円錐状に瘠せた枝を分かれ、各枝端に長さ6-7mm長のカップケーキに似た頭花を開き、外側にはそれより長い倒披針形の葉状苞6-10個を伴い、心花は濃暗黄色、花後頭花は大きくなり、瘦果は扁平で、両肩には逆刺のある棘状の冠毛が2本立つ。

やなぎたうこぎ

Bidens cernua L.

北半球北部の低湿地に生ずる1年生草本。日本では東北地方から以北に産する。茎の下部は横たわり、多数のひげ根を出し、太い根茎の観がある。高さ40-80cm。全体に軟質である。葉は対生し、無柄で倒披針形又は披針形、長さ6cm内外。縁には低い疎鋸歯があり、両端は尖るが上部では基部で多少ふくれて茎を抱き気味である。夏に入ると茎頂に近く若干の枝を分かれ、各頂上に頭花をつける。頭花ははじめ点頭径2cm内外、その周囲は披針形で立つた長い葉状苞数個で囲まれ、数個の短かい舌状花があり汚黃色、瘦果は4角柱状長さ4mm。逆利のある刺状の冠毛は4個。瘦果より短い。和名は柳田五加木で、タウコギに似て葉形がシダレヤナギの様に狭いからである。

おおはまぐるま

Wedelia robusta Kitam. (= *W. prostrata Hemsl.*)var. *robusta Makino*)

四国及九州暖地の海岸に生ずる多年生草本。台湾以南の熱帯海岸に生ずるキガチハマグルマにも近い。強壮な伏臥状の草で、茎は溝のある4稜柱、粗毛があり、盛んに分枝する、葉は短柄のある卵状楕円形で長さ8cmに達し、鋭頭、広楔脚、厚質、三行脈があり、ざらついた毛を布く。盛夏から、引きつづいて枝頭に3-4個の頭花を凹頭の繖房状につける。頭花の径2cm。黃色の舌状花は7-8個。和名は大形のハマグルマの意で、ここにいうハマグルマはクマノギクではなく、曾つて誤認されたネコノシタの方である。



第3273図

だんごぎく

Helenium autumnale L.

北米中東部原産の多年生草本で觀賞用として栽培される。茎は丈高く1m内外になり、顯著な翼がある。葉は広倒披針形で鋭頭、縁に鋸歯があり、長さ5-12cm巾1-3cm、目立たぬ細毛と細腺点があり、下部は長く楔状に細まり茎に流れて翼になる。夏から秋に、茎の上部に枝を分けて黃色の頭状花をつける。頭花は柄があり、径3cm内外、総苞は平たい皿状で総苞片は線状披針形で開出する。舌状花は倒卵形で長さ1cm余、先は浅く3裂し、中央の筒状花群は半球形に盛り上る。冠毛は白膜質の5裂片からなり、裂片は長さ約1mm、先は長く芒状に尖る。花托は半球形で無毛、果は稜に沿って毛がある。和名団子菊は花心が半球形にもち上った様子をたとえたもの。



第3274図

まんさくひゃくにちそう

Zinnia multiflora L.

メキシコ原産の1年生草本。茎は直立、頭花に終る主軸を抽いて側枝は上方に伸び上つて多数分枝し、高さ1m内外に達し瘦長な茎に散毛があり、葉は無柄対生、基は多少茎を抱いて平開し、卵状披針形、やや心脚、表面粗澁、三脈明瞭、各枝の頂に径2-3cmの帶黃赤色の頭花を開く。舌状弁は倒卵状楕円形、底部は短く狭窄し、上端は微凹頭、剛質、花後褪色してもなおしおれない。総苞は倒卵形、長さ11-13mm許、総苞片は巾広く覆瓦状に重なる。枝叢に小頭花を万開するので、万作百日草の名を得た。九州の花戸より聞く所によるともと満洲より得たのであると言う。

